

(資料2)別添2-2:テーマごとの整理(①現状、②根本原因、③テーマ、④理想の姿、⑤ギャップを埋めるための道筋)

③テーマ	課題No.	①現状:何が起きているか	②背景:なぜ生じるか (根本原因から要約)	④理想の姿 (区民の視点)	④理想の姿 (区内事業者の視点)	④理想の姿 (来訪者の視点)	④将来目指すべき姿 (三者の統合)	④大切にすべき価値	⑤ギャップを埋める ための道筋
テーマ1 暮らしと観光の共生	No.1, 4, 8, 10, 17, 19, 24, 29, 30, 33, 34, 41, 55	ごみ、騒音、不適正な民泊、マナー違反等により区民の生活環境に影響が生じており、観光に対する区民の受容度が低下する懸念がある。	生活空間と観光動線が近接していることに加え、言語や生活習慣の違いへの対応、ルールを現場で一元的に啓発・指導する仕組みや体制が不足している。	◆ごみ・騒音・マナー問題が抑制され、安心して生活できる(ごみ／マナー対策) ◆観光客との共生に対する納得感がある(観光客と住民の共生) ◆観光による負荷が適切に管理され、生活環境が守られている(受入環境／共生) ◆災害時にも安心できる環境が整っている(安全安心／防災)	◆苦情対応や環境負荷への過度な対応負担が軽減される(マナー対策／受入環境) ◆地域全体で観光を支える仕組みができている(観光客と住民の共生) ◆安全・安心な受入環境を維持できている(安全安心／防災) ◆地域との摩擦を抑えながら持続的に営業できる(共生／受入環境)	◆地域ルールやマナーを理解しやすい(マナー対策／多言語対応) ◆安全・快適に滞在できる(安全安心／受入環境) ◆地域住民や地域文化への配慮を持ちながら観光を楽しめる(観光客と住民の共生) ◆多言語や防災情報等に安心してアクセスできる(多言語対応／防災)	ルールやマナーが遵守され、生活環境への負荷が最小化されることで、区民が安心して暮らし、観光客と地域が共生できている状態。	安心・安全、生活環境の保全、相互尊重、共生	事後的な事象への対応から、「持続可能な受入環境の整備と地域住民との共生」への転換。
テーマ2 回遊・分散と快適な滞在環境	No.22, 23, 25, 26, 27, 28, 31, 32, 35, 39, 42, 43, 44	特定のエリアや交通機関への集中により混雑が生じ、区民の生活動線に影響を及ぼすとともに、来訪者の快適性や回遊性にも課題が生じている。	一部エリアへの来訪者の集中に加え、二次交通や手荷物預かり機能の不足、さらには駅等のインフラ拡張における制度上・物理的な制約が課題となっている。	◆極端な混雑や交通負荷が軽減され、快適に暮らせる(混雑平準化／交通環境) ◆徒歩や公共交通で安全・快適に移動できる(歩行環境／交通環境) ◆地域ごとの個性や景観が維持されている(景観／地域個性)	◆来訪者が地域全体を回遊することで、新たな顧客層と接点を持てる(回遊促進／地域間連携) ◆一部地域への過度な集中が緩和され、持続的に営業できる(混雑平準化) ◆滞在時間や回遊性向上により消費機会が増えている(回遊促進／滞在環境) ◆地域全体への経済波及が生まれている(回遊促進／地域経済循環)	◆浅草だけでなく、谷中・上野・蔵前など多様な地域文化を楽しめる(回遊促進／地域個性) ◆快適に移動・滞在・周遊できる(交通環境／荷物預かり／滞在環境) ◆混雑ストレスが少なく、まち歩き自体を楽しめる(混雑平準化／歩行環境) ◆地域ごとの異なる魅力を体験できる(景観／地域個性)	混雑が平準化され、誰もが安全・快適に移動・滞在できる環境が整い、多様な地域を回遊して新たな魅力を楽しめる状態。	快適性、公平な利用機会、誰もが利用しやすいこと、地域全体の魅力享受	特定エリアへの集中の是正から、「空間の分散・回遊と、生活環境との共生」への転換。
テーマ3 歴史文化の活用と高付加価値化	No.5, 6, 11, 20, 21, 36, 37, 38, 46, 47	歴史・文化の深い文脈が伝わりきらず、画一的な観光消費の傾向が見られ、知的好奇心層への誘客や上質な体験の提供が十分に図られていない。	地域の奥深い魅力を伝える専門人材や機会が不足し、多面的な魅力の訴求が十分に図られていない。質の高い体験の提供や人材育成に向けた支援体制に課題がある。	◆地域の歴史・文化・産業が保存継承され、区民自身も学びや誇りを感じられる(歴史文化活用／地場産業) ◆美術館・博物館・文化施設等を日常的に活用できる(博物館・美術館) ◆地域文化への理解や学びが深まる(学び／知的好奇心)	◆価格競争ではなく、文化的価値を活かした高付加価値型経営ができる(高付加価値化／職人文化) ◆地場産業や職人文化の価値が適切に評価されている(地場産業／職人文化) ◆従業員待遇や生産性向上につながっている(高付加価値化／生産性) ◆文化的背景を活かした商品・サービスを提供できる(文化体験／歴史文化活用)	◆台東区ならではの歴史・文化・芸術・職人文化に深く触れられる(歴史文化活用／職人文化) ◆知的好奇心が刺激される体験や学びを得られる(学び／知的好奇心) ◆文化的背景を理解しながら商品・食・空間を楽しめる(文化体験／地場産業) ◆何度も訪れたいくなる奥行きのある体験ができる(高付加価値化／文化体験)	本区ならではの歴史・文化・職人文化の価値が適切に評価され、来訪者が深い学びを得るとともに、事業者の高付加価値型経営が実現している状態。	真正性(本物であること)、知的探究、文化理解、学びの深化	画一的な観光消費から、歴史や職人文化を深く学ぶ「知的体験価値(高付加価値化)」への転換。
テーマ4 地域経済への波及・循環	No.18, 40, 48, 50, 54	観光需要は回復傾向にあるものの、その恩恵が一部の地域や業種に偏る傾向があり、地場産業や中小事業者を含めた地域全体の収益力や生産性の向上に十分に繋がっていない。	人手不足や物価高騰等の影響に加え、既存のビジネス構造等の課題により、新規事業の創出や生産性向上への投資に向けた経営資源が不足している。	◆地域産業が維持・発展し、働く場や暮らしの豊かさにつながっている(地場産業／地域内経済循環) ◆地域ならではの商品・文化を日常的に享受できる(地場産業／地域文化)	◆地域内で経済循環が生まれ、持続的な経営ができる(地域内経済循環／生産性向上) ◆中小事業者や地場産業にも観光需要が波及している(中小事業者支援／消費拡大) ◆人材確保や待遇改善につながっている(人材確保／生産性向上) ◆観光による消費が地域文化や産業維持にも循環している(地域経済循環／文化継承)	◆台東区らしい商品・サービスを楽しめる(地場産業／地域文化) ◆地域文化に根差した消費・体験ができる(消費拡大／文化体験) ◆地域経済や文化を支える形で観光を楽しむ(地域内経済循環／共生)	観光需要が地場産業や中小事業者にも広く波及し、地域内で持続的な経済循環が生まれることで、産業の発展や人材の待遇改善に繋がっている状態。	地域への還元、地域経済の自立性、産業の持続性、多様な担い手の活躍	特定業種を中心とした消費から、地場産業や中小事業者にも恩恵が広く波及する「地域内での経済循環」への転換。
テーマ5 地域文化の継承	No.7, 9, 16, 52	地域におけるコミュニティや行事・文化の維持基盤が影響を受けており、観光と地域生活との関係性にも変化が生じている。	ライフスタイルの変化や人口構成の変化等により、地域における行事や文化を支える地域コミュニティの維持や担い手の確保が課題となっている。これらは主として地域コミュニティ施策や文化振興施策の領域であるが、観光との関係性にも影響を及ぼしている。	◆地域における行事や活動が継承され、地域への誇りや愛着を持てる(祭礼文化／シビックプライド) ◆子どもや若者が地域活動に自然に参加できる(子ども参加／住民参加) ◆観光によって暮らしや地域関係が損なわれず、安心して生活できる(地域コミュニティ／共生) ◆地域文化や暮らしが次世代へ継承されている(世代継承／担い手育成) ◆観光による恩恵が地域文化や共同体維持にも還元されている(地域還元／文化継承)	◆地域とのつながりを持ちながら事業活動ができる(地域コミュニティ／住民参加) ◆地域文化の担い手としての誇りを持てる(地域文化継承／シビックプライド) ◆若手人材や次世代の担い手が育っている(担い手育成／世代継承) ◆地域と共存しながら持続的に事業継続できる(共生／地域コミュニティ) ◆観光収益の一部が地域の行事や地域文化維持へ循環している(地域還元／文化継承)	◆地域文化や日常の営みに触れながら滞在できる(地域文化継承／文化体験) ◆地域のルールや価値観を自然に理解できる(地域コミュニティ／マナー) ◆「見る観光」だけでなく、地域文化への参加や交流を体験できる(住民参加／文化体験) ◆地域とのつながりや交流を感じられる(交流／地域コミュニティ)	地域における行事や活動が次世代へ継承され、観光の恩恵が地域コミュニティの維持・発展に還元されることで、区民が愛着と誇りを実感できる状態。	シビックプライド(地域への誇り)、共同体のつながり、世代間継承、当事者意識	文化を「観光資源として消費する」一方向の関係から、観光の経済効果を文化継承活動へ還元・循環させ、文化の豊かさがさらに観光の魅力を高める好循環の関係へ。
テーマ6 観光マネジメントの基盤	No.2, 3, 12, 13, 14, 15, 49, 51, 53	事象ごとの個別対応にとどまる傾向があり、庁内横断的な連携やデータ活用、長期ビジョンに基づく戦略的な観光運営が十分に図られていない。	観光課題が複雑化・広域化する中、部署間の連携不足や短期的な視点、データの分散等により、中長期かつ全庁的な視点での観光マネジメントに課題が生じている。	◆区民生活との調和を重視した政策運営が行われている(長期ビジョン／需要マネジメント) ◆観光の恩恵や負担が可視化され、納得感を持てる(EBPM／財源循環) ◆将来世代の視点を含めた地域運営が行われている(次世代参加)	◆データや実証に基づく持続的な地域経営が行われている(EBPM／KPI) ◆庁内・地域・民間の連携により地域全体で観光を支えている(庁内連携／多主体連携) ◆持続可能な財源や需要マネジメントにより安定的な観光運営が行われている(財源循環／需要マネジメント)	◆安全・快適・持続可能な観光地として信頼されている(長期ビジョン／需要マネジメント) ◆地域文化や暮らしへの理解を深めながら滞在できる(次世代参加／地域理解) ◆データや改善に基づき受入環境が継続的に向上している(EBPM／KPI)	長期ビジョンとEBPM(根拠に基づく政策立案)に基づき、区民生活・地域文化・観光振興が統合的にマネジメントされている状態。	長期的視点、次世代への責任、公共性、持続可能性	短期的な個別対応から、「長期ビジョンとEBPMに基づく戦略的運営」への転換。